

ありがとう

妻の墓標に語りつつ

ひとり迎えし 三度の春を

みよ子三回忌



遙咲きの 越生の梅に振り返る

背になつかしき 妻の声聴く

みよ子三回忌



亡き妻の愛しき声に 振り返る

重ねし季節は 三年の春に

みよ子三回忌



妻の声 背になつかしく 振り返る

三年重ねし 立亡き雛が

みよ子三回忌



七度の春を迎うる 我が胸の

微笑む妻は 今も変わらじ

みよ子七回忌



ほんぼりに あかり灯せぬ七度の
主亡き雛に 桃花さびしき

みよ子七回忌



春よ來い

妥協許さぬ

ひたむきさ

君に届けよ

大輪の花



旅支度

ととのえし今尋ねおり

妻待つ淨土

時季こそいかに

みよ子九年忌



満開のさくら凍える

なごりゆき

